

■ 修士論文要旨

日本と中国のコンビニエンスストア経営の現在と未来

—セブン—イレブンを中心に—

The present and future situation of the convenience store's management in China and Japan
— Focused on Seven-Eleven —

神奈川大学大学院 経営学研究科
国際経営専攻 博士前期課程

任 情

REN, Qian

コンビニエンスストアは、年中無休で長時間の営業を行い、小規模な店舗において主に食品、日用雑貨など多数の品種を扱う形態の小売店である。

世界的なレベルで、企業や社会のグローバル化が急速に進展してきている。国際貿易の活発化、航空機、船、鉄道などの国際的通信・情報伝達の進歩などにより、ボーダーレスの時代に突入してきている。さらに、マスコミの発達による文化、情報の国際化、地域統合、自由貿易体制の進展、各国の直接投資規制緩和政策、多国籍企業の発展、人の国際的移動の活発化などにより、世界的にグローバル時代に突入してきている。その波で、たくさんの企業は海外に進出し、チェーン店として、世界中に広がっていった。また、中国と日本を中心に比較するため、伝統的な経営学だけでは解決できない、グローバル化による複雑な問題に取り組むべく国際経営という学問領域を研究、分析したいと思っている。

今は国ごとにたくさんのコンビニエンスストアを展開し、それぞれのサービスを提供している。特に日本ではセブン—イレブン、ローソン、ファミリーマートという三つの大手チェーン店で、非

常に有名である。今も日本だけではなく、海外にも進出している。

その中で、一番目のセブン—イレブンを中心に日本国内で他のコンビニエンスストアと比較して、中国での支店の状況でも比較しようと思っている。まだ、台湾も絞って、経済や文化などから、同じブランドが各地での現状を説明する。

第一章はコンビニエンスストアの歴史に関して、日本と中国について調べる。特にセブン—イレブン、ローソン、ファミリーマートこの三つ会社を中心に、それらの沿革を書く。また、中国でも現地ブランドのコンビニエンスストアもある。しかし、全国に広がっているほうはひとつもないから、それはなぜなのかも調べたい。

第二章は日本と中国のコンビニエンスストアの現状ということで、世界経済背景のもとで、チェーン店として、各国の行動や状況を説明して、比較する。主に中国では、コンビニエンスストアまだ全国で普及していないから、まだまだチャンスがある。その一方今中国ではコンビニエンスストアは大都市と中都市に集まっている。特に上海、北京などの大都市でコンビニエンスストアは飽和状態になりかけている。また、ネットショッピング

発展している今では、店頭販売が大きな影響があり、これから実店舗はどうなるのか、それも研究したいものである。日本でも、コンビニエンスストアの未来は厳しくなっている。コンビニエンスストアのメリットは自分の家からすぐ近くにあり、どの時間帯に行っても、ほとんどの物が手に入るからこそ、スーパーなどで買うよりも数割増の値段の商品が売れることである。現在、その24時間営業強みが弱まってきている。それに対して、現在はコンビニエンスストア業界が具体的にどんな手段を使っているのかも研究したい。

第三章は日本と中国のセブン-イレブンを事例として比較する。特に経営方針や経営理念などを中心に、二つ地域の違う点を研究する。また、台湾を含めて、それらの違いを述べ、なぜセブン-イレブンはそんなに流行っているだろうとその原因も調査しようと思っている。

第四章はコンビニエンスストアの未来である。日本のコンビニエンスストアは今大きな転換期を迎えている。高齢化社会の進展、単身者や共働き世帯の増加などがコンビニ業に大きな影響をさせている。中国のコンビニ業界では、上海、北京などの大都市では飽和状態となっているが、他の中都市はどうでしょう。そして、日本のコンビニエンスストアは雑貨店がないというメリットがあつて、中国は日本と違って、食品や日用品を売っている雑貨店が多いから、コンビニエンスストアの強みが出さないと、競争力が低くなるからである。だから、コンビニエンスストアはうまくいけるには、まだまだ苦勞しなければならないから、どうすれば生き残れるのがなどをもっと研究したいと考えている。

最後の結論では、三つ結論を述べる。第一の結論はチェーン店として、メリットとデメリットを探ることである。第二の結論は日本と中国のコンビニエンスストアの経営戦略の違いとその原因を述べる。第三の結論はコンビニエンスストア未来の予想である。